

トビタテ選考体験記（18期・Steam コース）

学部・研究科：工学部

学年：2 年（応募時）

【トビタテ応募前】

〈トビタテを知ったきっかけ・応募しようと思ったきっかけ〉

私は高校生の頃に、トビタテ！留学 JAPAN 高校生コースのポスターを見て、「とても魅力的な制度だな」と思っていました。そして今回、交換留学が決まってから、どの奨学金に応募しようか迷っていたところ、大学の掲示板に貼られていたトビタテのポスターを見つけ、高校生の頃に憧れていたことを思い出しました。合格するまでの過程は難しそうだとは思いましたが、「挑戦する価値はある」と思い、応募を決意しました。

〈情報収集はどのように行ったか〉

情報収集は、トビタテ！留学 JAPAN のホームページや、トビタテ生が運営している「トビログ」の記事、先輩トビタテ生の note（ブログ）を参考にしました。また、知り合いのついで先輩トビタテ生を紹介していただき、直接アドバイスもいただいていた。

【トビタテ応募にあたり（書類審査対策）】

〈応募に向けてどのような対策をしたか〉

まずは、自分が将来やりたいこと、目標、考えていること、今までやってきたこと、興味のあることなど、思っていることを改めてたくさん紙に書き出して整理しました。このおかげで、この留学に対する思いや達成したい目標がより鮮明になりました。志望書を書いているとき、留学計画やその先の将来像は本当に自分がやり遂げたいことだけれど、夢が膨らめば膨らむほど「本当に実現できるのかな」と不安になり、応募することを迷った時期もありました。ですが、先輩から「できるかどうかじゃなくて、やるかどうかだよ。」と言われたときに、決意が固まりました。迷っている人がいたら、ぜひ応募してみてください。留学が始まる前から、このトビタテの応募を通して自分とたくさん向き合うことができ、本当に成長できます。そして、その成長した姿で留学をスタートすることができます。

合格するかどうかを考えて不安になるよりも、この応募を通して自分が成長できることにわくわくしながら取り組むと、とてもいいと思います。そんな人をトビタテ事務局側も求めていると思います。

〈留学計画を作成するにあたり心がけたこと〉

トビタテでは、留学計画は「海外の大学で授業を受ける」といった座学だけではなく、実践活動（研究・フィールドワーク・ボランティア活動・インターンシップなど）も含める必要があります。この実践活動を考える作業が、最初は一番大変だと思います。そのとき私が活用したのが、トビタテのホームページにある「留学大図鑑」です。過去のトビタテ生の体験談がたくさん掲載されており、自分と似たテーマの先輩がどのような実践活動をしていたのか、また同じ留学先の先輩がどんな活動をしていたのかを見ることで、多くのヒントを得ることができました。たくさん先輩の体験談が掲載されているので、どこかに必ずヒントがあると思います。ぜひ活用して、実践

活動を考えてみてください。

〈添削について〉

書類が一通り完成したら、私は親に添削してもらいました。時間的にギリギリだったため、すぐにレスポンスをもらえる人をお願いしました。また、大学の交換留学の書類を作成したときには、学科の先生にも添削をお願いしていました。自分が信頼できる人に、一人は必ず読んでもらうことをおすすめします。自分の夢ややりたいことは、自分ではしっかり伝わっていると思っても、文章にすると意外と伝わっていないことがあります。相手に自分の留学ビジョンがしっかり伝わる文章になるまで、何度も書き直しました。

〈自由記述欄について〉

自由記述欄では、指定されている必須項目以外にも、自分のこれまでの活動や、自分の得意なこと（この留学で生かせること）、最近取り組んでいる活動や主催したイベントなどを書き、自分のことをより知ってもらえるよう意識しました。いかに「この人に面接で会ってみたい」と思ってもらえるかが大切だと思います。そのため、トビタテが大切にしている「独自性」や「レジリエンス」など、どのような人物を求めているのかをホームページなどでしっかり確認し、自分がそれにふさわしい人材であることを伝えられるよう心がけました。また、今まで頑張ってきたことや、この留学計画につながる活動を書くことで、話に深みが出ますし、面接でも深掘りされるポイントになります。実際に私は、その内容について質問され、「その当時のことをもう少し教えて」と話が広がりました。何より、自分が本当に頑張ってきたことなので、話していると自然と気持ちが入り、熱量を持って面接に臨むことができました。

【トビタテ面接にあたり（面接審査対策）】

〈面接に向けてどのような対策をしたか〉

私は書類審査通過の通知をもらってすぐ、先輩方の体験記を読み漁りました。また、自分自身まだ就職活動もしたことがなく、面接というものに慣れていなかったため、就活を終えた先輩に、緊張のほぐし方や気持ちの持ちようなども聞きました。トビタテの面接は就活の面接とは大きく異なると思っていたので、先輩トビタテ生の体験談をたくさん聞いたり、体験記を読んだりして、「何がよく聞かれるのか」「話すときに意識すべきことは何か」を情報収集しました。

学校のキャリアセンターの先生にも何度も個人面談をしていただき、自分の留学に対する思いや夢について、一緒に言語化する作業を手伝ってもらいました。先生と話していくうちに、自分のこの留学に対する思いがより強くなりました。先生はとても親身に接してくださり、自分の思いを話して、それに対してフィードバックをいただいたときは、「自分の夢や思いが伝わるって、こんなに嬉しいことなんだ」と感じることで、自身も持てました。面接対策に困っている方は、ぜひ先生とお話ししてみてください。自分の思いは本物なんだ、と改めて実感できると思います。また、トビタテの先輩方が運営している「トビログ」という団体では、面接対策のオンラインイベント（Zoom）が開催されています。毎年とても人気なイベントなのですが、そこでは実際に先輩トビタテ生が面接官となり、面接練習をしてくださいます。さらに、書類審査を通過した同期の面接の様子を見ることもできるため、とても参考になりました。そこでフィードバックをいただいたり、面接官をしてくださった先輩トビタテ生と連絡先を交換して、本番まで相談に乗って

いただいたりもしました。またそこでは、グループ面接の練習もでき、そこで出会った同期とは、その後も連絡を取り合い、個人的に Zoom で面接練習会を開いて、何度も練習しました。他の人の留学計画のプレゼンを見ると、本当にたくさんの発見があります。自分の計画もどんどんパワーアップしていきました。また、お互いにたくさん質問し合うので、本番ではどんな質問が来ても堂々と受け答えできたと思います。私は面接当日までの 1 週間、毎日夜に誰かと Zoom をつないで面接練習をしていました。

神戸大学で開催してくださる面接練習会も、先生方が本当に手厚くコメントしてくださるので、ぜひ参加することをおすすめします。そこで出会った神大生とも Zoom で面接練習をしました。とにかく場慣れです。たくさんの人に自分の留学計画をプレゼンしていくうちに、自分の熱意や本音を相手に伝えられるようになります。そして何より、自信がつかます。

〈面接で意識していったこと〉

面接官は基本的に企業の人事の方で、「人を見るプロフェッショナル」の方が多いです。そのため、専門知識をたくさん話せることよりも、自分の研究内容や留学内容を、専門外の人にも分かりやすく伝えられるように練習することをおすすめします。そして、トビタテの面接では何が重視されているのかをしっかりと頭に入れた上で、自信を持って面接に臨み、自分が掲げている留学やビジョンを、誠意を持って伝えてください。

【面接当日のこと】

〈個人面接〉

服装が指定されていなかったのですが、とても迷いましたが、私はオフィスカジュアルな服装で行きました。周りもオフィスカジュアルの人が多く、一部、学校の作業着や聴診器をかけている人もいました。私はドイツらしさを少しでも出したいと思い、布でドイツ国旗のワッペンを手作りして、当日胸につけて行きました。すると、面接が始まって席に座る途中で面接官の方が気づいてくださり、「そのワッペン、作ってきたんですか？」と聞いてくださいました。「はい！手作りです！」と答えると、「ちょっと見せて！」と言ってくださり、最初から距離を縮めることができ、緊張もほぐれました。服装で迷っている方は、留学先の国旗のバッジなど、小さなワンポイントを取り入れてみるのもいいかもしれません。

お互いの自己紹介終わったら、まずは「ざっと留学計画をプレゼンしてみて」と言われました。私の面接官の方は、「何分で話してください」といった時間指定は特にありませんでした。プレゼンが終わると、その内容について深掘りして質問していただく、という流れでした。比較的フランクな雰囲気話すことができ、40 分間の面接時間はとても楽しい時間になりました。もちろん面接官によるとは思いますが、私の担当の方は、留学内容や研究内容よりも、私自身がどんな人なのかを知ろうとくださっているように感じました。

〈プレゼン内容〉

自己紹介、テーマ、日本・世界の現状、課題点、解決策、原体験、目標、留学先の理由、留学中の活動（座学・実践活動）、帰国後、将来のキャリアビジョン

〈質問内容で覚えていること〉

- * 留学計画のプレゼン、仕上げてきたね。誰かに見てもらったの？
- * 同じ大学のトビタテの先輩とは知り合い？
- * なんで理系を選んだの？
- * この留学には実際何円くらい必要なの？
- * 将来のキャリアについて
- * どこに就職したいとかあるの？
- * なぜトビタテに応募したのか
- * 友達からはどんな性格って言われる？
- * アンバサダー活動では何をするの？
- * エヴァンジェリスト活動では何をするの？
- * 困難を乗り越えた経験で書いていたことを詳しく教えて？
- * 自由記述欄に書いていた主催イベントについて詳しく教えて？
- * なんでこの留学計画の内容に興味を持ったの？
- * 家族仲がいいんだね。(幼少期の話や、おばあちゃんの話をしていたので、そこから話が広がりました。)
- * どんなふうに育ってきたの？

私の面接官の方は、会話の流れの中で自然に質問するという感じでした。一方で、ほかの方は留学計画について細かく深掘りされたり、あらかじめ用意された質問に次々と答えていくスタイルだったという話も聞きました。面接官によってかなり雰囲気が違うので、どんな質問が来ても大丈夫なように、面接練習ではいろいろな人に留学計画を聞いてもらい、さまざまな質問に答える練習をしておくことをおすすめします。

〈グループ面接〉

基本的な流れは以下です。

- ① 1 人 3 分で以下の内容を含めて発表(席順で発表)
 1. どのような留学にしたいと思っているか
 2. (原体験を踏まえて)なぜトビタテなのか
 3. 留学を作成するプロセスでの気づき
 - ② 右隣の人にフィードバックする上で深掘りしたいことを簡潔に質問応答(2分)
 - ③ 2 分で順番に a,b を含めてコメント
 - a: 自分に不足していると感じ、参考にしたいと思ったこと
 - b: より良い留学にするためのアドバイス
- ・基本、学生 6 人に対し、面接官 1 人

基本的な流れは前年度と同じでした。私のグループは面接官 1 人、学生 4 人(全員 STEAM コース)だったため、全体のアナウンスどおりに進めると時間が余ってしまい、その分、お互いの意見交換をたくさんすることができました。このように、途中からアナウンスなしで、自分たちで時間を管理しなければならない場面もあったので、持参したストップウォッチを活用し、みんなで

時間を共有していました。残り時間が一目で分かるので、ストップウォッチはおすすめです。試験監督の方にも「助かります」と言っていただきました。面接官の方も一緒に話を聞いてくださり、最後の意見交換では私たちと同じように質問をしてくださいました。一緒にグループディスカッションを楽しんでくださっているような雰囲気、とても話しやすかったです。

グループで話すときは、みんなが同じくらい話せるように意識して、いろいろな人に話を振るようにしていました。グループ面接では、「一緒に受かろう」という気持ちが大切だと思います。ライバルというより、一緒にその場をより良い議論の場にする仲間という気持ちで臨むと、とても良い雰囲気になります。緊張するかもしれませんが、楽しんで参加することが一番だと思います。トビタテの面接に来るような人は、本当に面白くて、機転が利いて、優しい人ばかりです。

【その他】

〈当日の注意点〉

- * 会場内に自販機はないため、飲み物は事前におくことをおすすめします。
- * 二次審査中はトイレ休憩がありません。
- * 服装は本当にさまざまでした。オフィスカジュアルの人が多かったですが、スーツの人や、大学の作業着を着ている人、趣味を表す服装の人もありました。

〈二次審査終了後〉

二次審査終了後は、別会場で交流会（自由参加）がありました。同じ留学先の人や、同じ出身地の人とつながることができるので、ぜひ参加することをおすすめします。

〈最後に〉

もし何から手をつけていいのかわからない、応募しようか迷っているという方がいたら、トビタテの初代プロジェクトリーダーである舟橋力さんの本『トビタテ！世界へ』を読んでみるといいかもしれません。私は合格してから読みましたが、「これから留学に行く人にこそ読んでほしい」と思える一冊でした。

私は、トビタテに合格するまでの過程で、何倍も成長できたと心の底から思っています。留学の質も格段に変わりましたし、将来に対する自分の理想像もより明確になりました。

そして何より、合格するまでの間に、本当にたくさんの先輩や友達、先生方に支えていただき、「応援してくれる人がこんなにもいるんだ」ということを実感できたことが、自分の大きな自信につながりました。本当に感謝しています。

私も後輩のみなさんの力になりたいと思っていますので、何かあればぜひ気軽に連絡してください。国際課の方につないでもらえると思います。

この挑戦に本気で向き合って、自分だけの最高の留学をつくってください。応援しています！